



わたらせ森林組合のSDGs宣言！



SDGs(エスディージーズ)とは、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国も取り組むものであり、日本も積極的に取り組んでいます。

(外務省サイトより抜粋)

わたらせ森林組合では以下のような事業・取組を通じて、SDGsの達成を目指しています。

森林整備を通じた自然資源の保全



地域の森林整備を通じて、国土保全、水源涵養、土砂災害防止、温室効果ガス吸収、レクリエーション機能など、森林の持つ公益的機能が発揮します。これにより地域の安全な生活を支えます。

持続可能な林業と環境保全



伐採した山には必ず再造林を行い、「伐って、使って、植える」循環を維持し、山の豊かさを保ちます。豊かな山からは、栄養豊富な水が流れます。山の豊かさを守ることは、海や川の豊かさを守ることにつながります。

木を切るのに環境保全？

2022年に改訂された群馬県のレッドデータブックによると、県内で415種の野生動物が絶滅の恐れがあると考えられています。SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」では、「自然の生息地がおとろえることをおさえ、生物の多様性が損なわれないようにし、2020年までに、絶滅が心配されている生物を保護し、絶滅を防ぐため、緊急に対策をとる。」というターゲットが設定されています。

自然の生息地がおとろえることをおさえる活動の一環として、木を切る間伐などの森林整備は有効な手段の一つとされています。間伐にご興味のある方はわたらせ森林組合までお問い合わせください。



準絶滅危惧種：オコジョ

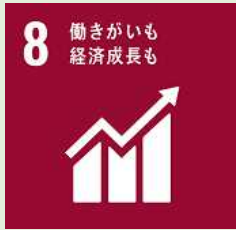


準絶滅危惧種：オナガ



準絶滅危惧種：ヤマメ

スマート林業で効率性と安全性を向上



スマート林業・ICT関連企業と連携し、作業の機械化を促進することで、作業の効率化と生産性の向上に取り組めます。作業を効率化することで作業の負担を減らし、労働災害の防止にも取り組めます。

森林資源でクリーンな社会を目指す



森林資源の利用促進を進め、二酸化炭素の排出を抑えクリーンな社会づくりに貢献します。木材を加工する過程で出たチップは、木質ペレットに加工しバイオマス燃料にすることで、二酸化炭素の排出を抑えます。

木を燃やしても環境保全？

近年、植物などから作られるバイオマス燃料というものが注目を集めています。このバイオマス燃料は、ガソリンや灯油に代表される化石燃料と違って、燃やしても二酸化炭素の量が増えません。木から作られているなら燃やせば二酸化炭素は出るんじゃないの？なんて思いますよね。そこには、植物由来ならではの仕組みがあるのです。

植物は、空気中の二酸化炭素から炭素を取り込んで成長しています。取り込まれた炭素は、木が燃えるか枯れて朽ちるまで木にとどまり続けます。当然、木をどのように加工しても燃やせば二酸化炭素が発生します。しかし、ここで発生する二酸化炭素の量は、木が生涯かけて吸収した二酸化炭素と同量になります。つまり、木が成長する前と木を燃やした後では、空気中の二酸化炭素の量は変わらないのです。一方で、化石燃料は地中深くに眠っていたものを燃やすので、掘り起こす前と燃やした後では、空気中の二酸化炭素の量が増えてしまいます。

このような、空気中の二酸化炭素の量が増えないようにする活動や考え方のことを「カーボンニュートラル」といいます。今は日常生活でバイオマス燃料に触れる機会はありませんが、化石燃料の代わりにバイオマス燃料が使われる未来もあるかもしれませんね。

